

先進地を行く

「超高速情報通信整備」のためCRCCメディア(くーみんテレビ)へ JA大山の農産物直売所、レストランへ

文教厚生 文教厚生常任委員会が2月25日、26日、先進地を視察しました。レポートを紹介します。

委員	委員	委員	副委員長	委員長
眞崎	徳永	中島	西田	牟田口美智子
萬次	豊	和正	勉	

超高速情報通信整備

「久留米広域定住自立圏」の形成に向けた取り組み事業の一つである「超高速情報通信網整備」について、大木町でも整備が進められることとなり、株式会社CRCCメディア(くーみんテレビ)での視察研修となった。

近年、町内の多くの事業所や家庭にもパソコンが普及しており、情報の収集や商取引、決済にまで幅広くインターネットが利用されるようになってきた。

大きな情報量を超高速で通信することのできるインターネット通信ケーブル網を、町は久留米市と連携して整備。その後の維持管理、運営を株式会社CRCCメディアに委託する公設民営方式を進



くーみんテレビスタジオ

めている。

今回町に整備される情報通信網の情報伝送速度は最大160Mbpsというところで、伝送速度はかなり速いものとなる。

住民の皆様の間接的な費用や工事代金、利用料金については、利用者登録の初期費用として1万5000円が必要で、工事費については接続ジャックを1口設置するまでの工事が通常2万5千円徴収しているが、今回は無料となり、利用料については、インターネット、ケーブルテレビ、インターネット電話がそれぞれ加入でき、セット加入の割引等も予定されているとのことである。

JA大山の農業振興方策

大山の自然条件、気象条件を生かす農業、そして年収1億円の農業を目指した、ここ大山で着目したのがキノコ栽培である。農家自身が経営力をつけることとして販売力をつけること、この2つをクリアすることが1億円の

農業経営の源だと考えた。4〜5年は苦労も多かったようだが、10年目で160戸の農家が栽培し年間16億円の収入、1戸当たり1000万円の収入となった。先を見ずえた農業のあり方を模索し、取組んできた大山町の農業の姿があった。

農産物直売所・レストラン

この直売所は農産物の価格は自分達で付けて売る。これが農家の気持ちであり農家のためになるというコンセプトが根底にある。

少量生産、多品目栽培、高付加価値販売という収益率の高い農業を求め続けている。さらに、生産・加工・流通・サービスという新しい流通のシステムを模索しながら、都会の人達が生産者と直接触れ合う交流の場としてとらえている。

本町へのアドバイスとして、レストラン、直売所の運営はすでに出遅れており、方法をしっかりと考える必要がある。人がたまたま寄るのではなく、

何かを目当てに来る店づくりが必要で、店舗の独自ブランドを作ることが非常に重要であるとのことであった。



JAおおやま矢幡組合長とともに

水道水の安定供給について大山ダム建設所へ

現在建設をされている大分県の大山ダムについて研修を行った。ダムの概要説明、その後工事現場の様子と工事説明を受けた。

このダムの目的には洪水調節、既存用水の安定化・河川環境の保全、新規利水があり、新規利水については大木町へ水道用水の供給を行っている福岡県南広域水道企業団や福岡地区水道企業団への取水が可能となり水道用水の安定供給が図られるとのことである。